

ほんばこ



No. **64**

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 64 号（通巻第 80 号）

2021 年 7 月 21 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 F

教 育 図 書 館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<http://www.jec.or.jp/tosho/>

● 目 次 ●

・「この本、読んだことある？」

・《図 書 紹 介》

・最近の受入図書（2021年 3 月～2021年 7 月受入）

・教育図書館のご案内

角田 達夫 2 ～ 3 p

教育図書館 藤川 伸治 4 ～ 5 p

6 ～ 7 p

8 p

「この本、読んだことある？」

角 田 達 夫

私はこの質問をされると、ドキッとします。そして、その本を読んだことがないと、何とも言えないモヤッとした気分になるのです。それは、悪いことをした、勉強不足を露呈してしまい恥ずかしいという気持ちに近いように思います。

別に読んだことがないなら、恥ずかしがる必要はなく、素直にまだ読んでいないこと、これから読んでみることを告げれば済む話です。それをわかっていながら、小さな頃から何とも恥ずかしい気持ちになるのです。一番古い記憶は小学生の時に父親から「『三銃士』はもう読んだか？」という質問だったと思います。次の日に大急ぎで学校の図書室で探し、1日で読み終え、すぐにあらすじや感想を話すのでした。すると、「そうか、ところで『海底二万マイル』はもう読んだか？」と次の質問がきます。私はこうやって父親が暗に勧める本を夢中で読み、読書にのめり込んでいきました。

今思うと、小さいながらに読書の必要性、本を読むことは大切な学習という意識はあったのだらうと思います。

エジソン、野口英雄、ベーブ・ルース、ヘレンケラーなど図書室にある全ての伝記を読み漁りました。シャーロックホームズも夢中になったシリーズの一つです。中学生では、夏目漱石、芥川龍之介といった作家に注目し始め、高校生では三浦綾子の『塩狩峠』を物理の授業中泣きながら読んだ記憶があります。（物理の先生は読み終えたときに、2分で感想を言えと言ってくださる素晴らしい方でした。）

大学では沢木耕太郎の『深夜特急』で海外への思いが膨らみました。

その後小学校の教員になり、2年生の担任をしているある日、子どもたちにこのセリフを言っている自分に気が付きます。

「みんな、この本読んだことある？」

読んだことがないと言った子の中で恥ずかしそうな顔をしたりした子がいました。2日後、その子は「先生の勧めてくれた本を読んだよ。おもしろかった。」と伝えてくれました。そして、もちろん次の質問をするのでした。「そう、よかった。それじゃこの本は読んだことある？」

野球の好きな子には王貞治の伝記、虫の好きな子には『ファール昆虫記』を手に取り、同じ質問をします。すると、その子は目をキラッと輝かせたり、時には恥ずかしそうな顔をしたりして、その本を夢中になって読み始めます。

この質問の良いところは、強制ではないことだと思っています。読んだことがなく、興味もないのであれば読まなければいいだけのことです。読書は学習でもあり、知識が身につく、想像力がつく、語彙力が向上するなど小学生には良いことだらけではありますが、無理に読ませたくはありません。やはり、趣味のジャンルでもある読書は、「おもしろい」が入り口であってほしいと思っています。

ある1年生の子が読書のおもしろさを「頭の中にあるテレビのスイッチが入り、アニメが映るの。本を読んでいると、そのアニメが動き出し、しゃべり始めるの。」と表現していました。

近年、中学生や高校生はスマホばかりで本を読まなくなったと言われています。スマホばかり見ているから、活字離れをし、読解力も下がっていると記事を見たことがあります。

全国学校図書館協議会の調査によれば、1か月に1冊も本を読まない「不読率」は2000年には小学生16%、中学生43%、高校生59%だったのが、2017年には小学生6%、中学生15%、高校生50%

となったそうです。ちなみに1か月あたりの読書冊数は2000年には小学生6冊、中学生2冊、高校生1冊だったのが、2017年には小学生11冊、中学生5冊、高校生2冊とこちらも改善傾向です。

経済協力開発機構（OECD）が実施したPISA調査によると、読書を肯定的に捉える生徒や本を読む頻度の高い生徒の読解力の得点が高いそうです。さらにこのレポートで興味深いことは、楽しみで本を読むことは、読解力の成績と関連しているということです。読書に費やす時間よりも、楽しみで本を読んでいるかが成績に影響しているということです。

読書には上記のようなメリットがあるわけですが、教育はICT化に進み始めています。紙の教科書の代わりにタブレットとなり、黒板の代わりに印刷等ができる電子黒板に代わっていくのかもしれない。情報を得るために手段としてパソコン、タブレットを適切に活用し、必要な情報を主体的に収集すること、価値を判断すること、それらを用いて表現する等の情報を活用する実践力の向上とともに情報を見極める能力、情報や伝達方法の社会的モラルを自省する力の育成等が求められることになります。

ICT教育では、子どもたちがパソコンやタブレットを巧みに使いこなせるようになることが目的ではなく、あくまでも手段のはずです。ハサミを使って紙を切る、絵の具で淡い色を作り出す、鉛筆で文字を書くといったように身体を使って実際に行うことと同様にパソコンでめしべの拡大した画像を見る、自分の投球フォームをタブレットで撮影した動画で確認する、作物の育成方法の話を農家の方にオンラインで聞くというように発達段階や学習の内容や方法等様々なことを考え、活用していくことが教員の授業力向上の要素になってくるかもしれません。

手段としてのパソコン、タブレットの活用が進

むほど今後は読書がさらに重要になるのではないかと思います。それは、ネット上の情報を正しく収集することは本で得た知識等を活用することになるでしょうし、社会的モラルの育成には文学作品等の読書は欠かせないでしょう。情報が相手の立場を正しく考慮しているのかというような他者への配慮や人権的な感覚にも読書の役割は大きいと思っています。紙から電子に変わろうとも本質は変わらないはずで、今後も本を楽しむ読書の役割は続くことから、「この本読んだことある？」という質問はドキッとしながらも大切に受け止めていきたいですし、子どもたちにはぜひ投げかけたいと思うのです。

（日本教職員組合 中央執行委員）



教育図書館について

教育図書館は、1966年10月1日、（財）日本教育会館の附設図書館として設立されました。教育関係図書を中心に、日本教職員組合結成以来の刊行物、全国教研集会報告書などのほか、教育文化総合研究所（略称教育総研、前身は国民教育研究所）の研究成果、教育学一般、教育実践記録などを重点的に収集、閲覧に供しています。

ICT教育・学校図書館に関連した図書

『第四次産業革命と教育の未来』佐藤学著 岩波書店 2021.4

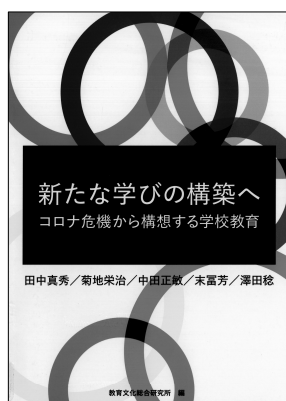
『すぐ実践できる情報スキル50』塩谷京子 編著 ミネルヴァ書房 2016.4

『情報リテラシーのための図書館』根本 彰著 みすず書房 2017.12

《図 書 紹 介》

コロナ禍と教育

（一財）教育文化総合研究所は、新型コロナウイルス感染症が学校教育に大きな影響を与えはじめたことから、コロナ禍と教育をテーマに2つの研究チームを立ち上げた。この度、その報告書が、「新たな学びの構築へ～コロナ危機から構想する学校教育（コロナ危機と学校教育構想プロジェクトチーム編）」と「デジタル・シティズンシップ教育の挑戦（デジタル・シティズンシッププロジェクトチーム編）」として刊行された。



前者は、5人の研究者それぞれの提言が掲載されている。全国一斉臨時休業措置により想定されなかった事態を経て、否応なく、これまでの教育が問い直されたことが論じられている。澤田は、学校の機能は学習指導だけではなく、その基盤である子どもたち同士の人間的な関係性をつくる場であり、それはオンライン授業の導入にあたって同様だと指摘している。菊地と中田は、教職という職業はケア機能を担っていることが明確になったこと、ケアの実践について具体例を紹介している。さらに、菊地は、中教審「令和の日本型学校教育」

（中間まとめ）は、明治以降の学校教育制度の連続性のもとにこれからの教育を捉えており、日本型学校教育という表現は、これまでの教育を教職員の献身的な努力として評価し、その内発的な試みを「熱心さ」や「教育に携わる喜び」という情緒主義に回収するものと批判している。一方、末富が、パンデミックに関わらず実現すべき政策としてすべての子どもを大切にする貧困対策の3つ

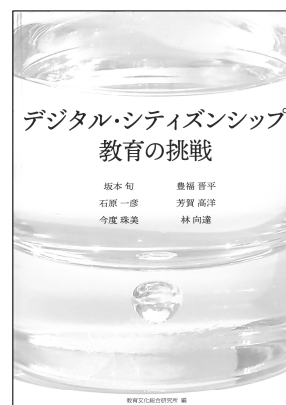
の視点を提示している点は注目される。

田中は、日本教職員組合が実施した新型コロナウイルス感染症に対する学校の対応状況に係る調査をもとに、コロナ禍は「学校教育において『何を優先する』」のかを問い直すきっかけになったと指摘している。

コロナ禍における学びを保障するため児童・生徒一人一台の端末の整備が一気に進んだ。

「デジタル・シティズンシップ教育の挑戦」で

は、4人の研究者・実践者が、GIGAスクールを概観し、その課題について論じている。坂本は、デジタル・シティズンシップ教育とは、日常的にICTを活用することを前提に、ウェルビーイングや民主主義社会の



形成者として必要な批判的思考を育むことと定義している。今度は、米国における著名なデジタル・シティズンシップ教育教材の概要を解説し、日本で実践する際の課題を整理している。従来の情報モラル教育では、児童生徒のネット利用は依存やトラブルにつながりやすいという前提に立った実践であり、その転換を求められると指摘している。豊福は、GIGAスクールは学校の情報環境を一変させ、教育関係者が大きなストレスを抱えることは避けられないとし、端末を扱う際のルールをつくることの必要性和その具体例を提示している。また、林は配布された端末が、いずれは放置され埃をかぶってしまわないよう実践にあたってのポイント、必要な人的措置に言及している。

タブレット端末は多額の税金が投入されていることにも鑑みると、活用が不十分な場合には学校不信を招きかねない。本書は実践にあたっての方向性がしっかり示されており、参考にしてほしい。



「学びの本質を解きほぐす」

池田 賢市著 新泉社

本書は、不登校、学力、障害、道徳、校則という5つの入り口から、権利、そして自由の領域としての「学び」のあり方を問うた渾身の力作である。筆者は、子どもとともにある教員が、どのような価値を大切にしているかは、直接的な言葉になっていなくとも、ほんの小さな表情の変化やつぶやき、あいづちを通して、確実に子どもたちに伝わる、と述べている。原則論が自分の中に定着していれば、おのずと実践は変化し、現状のしくみを変えていく「小さなスイッチ」を押し続けることができる、という。これは、教職をめざす人、教職員にとって、最も重要なあり方であろう。原則論を論じる際には、誰しも、現実の学校教育制度との乖離を感じ、「そんなことを言っても現実是不変変わらない」と原則論を捨象してしまいがちになる。筆者は、それでは子どもから学びの権利を奪ってしまう、と警鐘を鳴らす。

5つの入り口の一つに挙げられた「不登校問題」とは、子どもたちが学校に行かなくなること自体が問題なのではなく、なぜ、子どもたちは学校に行かなくなるのか、その理由や原因を子どもに求めていることがもつ問題であると論じている。不登校は、子どもの問題ではなく、学校のあり方を問うているのだ。法律等によって目的・目標が定められた教育活動では、子どもは、「完全な状態」ではなく「欠如した状態」であり、「完全な状態」にする子ども像が前提と述べる。一方、「子どもの権利条約」の子ども観は、自分の意見を述べ、

社会に参加する権利主体であるという原則であり、不登校は子どもの意見表明でもある。筆者は子どもが、不登校という行動で学校のあり方を問うている事実に向き合うことを求めているのだ。

「学力」についても、教育制度上、「基礎学力」といわれるものを設定し、その習得が当たり前のよう考えられることで、習得しなければ生きづらくなるなどという状況は人権侵害と指摘している。また、OECDは、PISAによって「学力」を国際指標化し、その国の教育政策に評価を下している。その学力観は、ますます高度化する技術革新によって予測困難になっていく未来社会に適応していくための「学力」であり、それは、企業が求める能力であり、その求めに自己責任として適応する力を身につける適応論であると批判する。戦後の高度成長期につくられた、「右肩上がり」の成長曲線、「成功」物語の中に教育制度が位置付けられてきたことも重なり、「成功」のために保護者や子どもは何をすればいいのか、懸命にならざるを得なくなっていると述べる。

そこから、自らを解放していくには、識字教育の視点から学ぶという指摘はこの書籍の根底を流れる学びの本質といってもよい。識字教育の中心課題は、文字を知らないことでなぜ不利益を被り、排除や差別を経験しなければならないのか。そしてなぜ特定の人々が文字についての知識が決定的に不足しているのか、ということを問うことが重要なのであって、文字を知らない人に文字を教えることではない。識字教育は、自ら文字を奪った社会構造を改革していく行動である。学びは、自らの生活や自らが生きているこの社会の構造を批判的に検討していく行為そのものであり、それが「生きている」ということであるという筆者からのメッセージは、現状を是とし、やりくりに追われる教育の中で、疲弊する子ども、教職員を解放していく道筋と言える。

(藤川伸治)

最近の受入図書

(2021年3月～2021年7月受入)

【日教組刊行物】

- 『友に学ぶ・共に学ぶ 2020』日本教職員組合編
『わたしたちの青年部運動』第46集 (2021年)
日教組青年部常任委員会 (株)アドバンテージ
サーバー 2021.3
『私大ユニオン20周年記念誌』全国私立大学教職
員組合 (私大ユニオン) 2021.3

【教育総研・県教組刊行物】

- 『デジタル・シティズンシップ教育の挑戦』教育
文化総合研究所編 (株)アドバンテージサーバー
2021.5
『新たな学びの構築へ』教育文化総合研究所編
(株)アドバンテージサーバー 2021.5
『3.11後の教育実践記録』第1巻・第2巻 教育
文化総合研究所編 (株)アドバンテージサーバー
2021.5
『神高教のあゆみーこの20年を中心にー』神奈川
県高等学校教職員組合 2021.3

【防災・減災】

- 『ともしび』シュエプレス編著 小学館 2011.8
『再び、立ち上がる！：河北新報社、東日本大震
災の記録』河北新報社著 筑摩書房 2012.2

【和雑誌】

- 『教育』No.870～No.875 (2018.7～12) 教育科学研
究会編 かもがわ出版
『教育学研究』VOL.86 No.1～4 日本教育学会
機関誌編集委員会編

【平和教育】

- 『シベリア抑留者への鎮魂歌』富田武著 人文書
院 2019.2

【教育・経済・社会】

- 『オンライン授業で大学が変わる』堀和世著 大
空出版 2021.3
『小さな学校の時代がやってくる』辻正矩著 築
地書館 2021.2
『カウンセリングで何ができるか』信田さよ子
著 大月書店 2020.10
『流行に踊る日本の教育』石井英真編著 東洋館
出版社 2021.1
『学びの本質を解きほぐす』池田賢市著 新泉社
2021.4
『タブレットで変わる授業デザイン』西尾環著
小学館 2021.3
『学校の未来はここから始まる』木村泰子、工藤
勇一、合田哲雄著 教育開発研究所 2021.3
『教員のメンタルヘルス』大石智著 大修館書店
2021.5
『教師が知らない「子どものスマホ・SNS」新
常識』藤川大祐 教育開発研究所 2021.4
『コピーして使える小・中学校の授業を高める学
校図書館活用法』渡辺暢恵著 黎明書房
2021.1
『おとなを動かす悩み相談クエスト：こども六法
NEXT』山崎聡一郎監修 小学館 2021.4
『子どもの貧困と「ケアする学校」づくり』柏木
智子著 明石書店 2020.2
『超多忙な教師を救う学校改革の極意』西留英雄
著・文・その他 教育開発研究所 2021.5
『国際バカロレア教育と教員養成』東京学芸大学
国際バカロレア教育研究会編 学文社 2020.6
『明日、学校へ行きたくない』茂木健一郎 信田
さよ子 山崎聡一郎著 KADOKAWA
2021.2
『世界の見方が変わる「数学」入門』桜井進著
河出書房新社 2020.12
『チーム学校の教師論』高橋陽一著 武蔵野美術
大学出版局 2021.4
『ゲーム・ネットの世界から離れられない子ども

たち』吉川徹著 合同出版 2021.2
 『文部科学省』青木栄一著 中央公論新社 2021
 『人新世の「資本論」』斎藤幸平著 集英社 2020.9
 『家族と国家は共謀する』信田さよ子著 KADOKAWA 2021.3
 『実力も運のうち：能力主義は正義か？』マイケル サンデル著 早川書房 2021.4
 『新型コロナ対応・民間臨時調査会』アジア パシフィック イニシアティブ [著] ディスカヴァー・トゥエンティワン 2020.10
 『ドイツ人はなぜ、毎日出社しなくても世界一成果を出せるのか』熊谷徹著 S Bクリエイティブ 2021.4
 『恐れのない組織』エイミー C エドモンドソン著 英治出版 2021.2
 『コロナ後の教育へ』荻谷剛彦著 中央公論新社 2020.12
 『コロナと闘う学校』川崎雅和編著 学事出版 2021.2
 『コロナ禍が変える日本の教育』教育改革2020共育の杜 企画・編集 明石書店 2021
 『「幸せ」な学校のつくりかた』真下麻里子著 教育開発研究所 2021.2
 『学力工場の社会学』クリスティ クルツ著 明石書店 2020.12
 『教師の仕事がブラック化する本当の理由』喜入克著 草思社 2021.1
 『すごい宇宙講義』多田将著 中央公論新社 2020.10
 『日本の教育はダメじゃない』小松光 ジェルミー ラプリー著 筑摩書房 2021.2
 『悩める教師のためのポジティブ・マインドセット』山根修著 明治図書出版 2020.9
 『神奈川大学人物誌』神奈川大学資料編纂室 神奈川大学 2021.3
 『プロ司書の検索術』入矢玲子著 日外アソシエーツ 2020.10

『教師と学校の失敗学』妹尾昌俊著 PHP研究所 2021.5
 『世界覇権の大きな真実』副島隆彦著 PHPエディターズ・グループ 2021.3
 『安いニッポン』中藤玲著 日経BP日本経済新聞出版本部 2021.3
 『第四次産業革命と教育の未来』佐藤学著岩波書店 2021.4
 『空気を読む脳』中野信子著 講談社 2020.2
 『他者の靴を履く』ブレイディみかこ著 文藝春秋 2021.6

【家庭・芸術・趣味・文学一般 ほか】

『クララとお日さま』カズオ イングロ著 早川書房 2021.3
 『52ヘルツのクジラたち』町田そのこ著 中央公論新社 2020.4
 『ザリガニの鳴くところ』ディーリア オーエンズ著 早川書房 2020.3
 『もう死んでいる十二人の女たちと』パクソルメ著 白水社 2021.3
 『ことばをめぐる17の視点』アンドレア モロ著 大修館書店 2021.2
 『激震』西村健著 講談社 2021.2
 『おれたちの歌をうたえ』呉勝浩著 文藝春秋 2021.2
 『リボルバー』原田マハ著 幻冬舎 2021.5
 『サキの忘れ物』津村記久子著 新潮社

編集後記

4回目の緊急事態宣言が発令、様々な思いを抱えて過ごされていることと思います。こんな時、少しでも読書が力になれば……と思います。

私の読書のきっかけも、小学校の先生の影響がありました。読書グループをつくり、持ち寄った本のあらすじと感想を話した読書会。楽しい時間でした。いつの間にか「おもしろい」から本を読むようになっていました。 (川内)

教育図書館案内

- * **開館時間**：午前10時～午後4時30分
緊急事態宣言中（7/12～）
午前10時～午後3時45分
閲覧はメール予約をお願いします。
✉ toshokan32304437@jec.or.jp
- * **開館日**：（火）・（水）・（木）
- * **蔵書の貸出**
貸出冊数：5冊／貸出期間：3週間
（利用者登録が必要です。）
- * **返却方法**：窓口返却か「ブック・ポスト」をご利用下さい。
- * **レファレンス・サービス**
当館所蔵の図書・雑誌、その他教育に関するお問い合わせはメールにてお願いいたします。
- * **コピー**：白黒1枚10円／カラー30円

特別コーナー

- **平和資料コーナー**：
反核（原発関連）・平和運動、平和教育教材、平和教育実践記録、戦争体験記など
- **日教組刊行物コーナー**：
日教組教育新聞・教育評論・月刊JTUなど
- **教育総研刊行物コーナー**：
年報、各研究委員会報告書など
- **日教組教研全国集会報告書・県教研のまとめ**
- **都道府県・高教組史誌、同機関誌**
- **文部科学省統計調査報告書・刊行物**：
学校基本調査、国際比較、教育費、学習指導要領、指導書など
- **海老原治善文庫**：元東京学芸大学教授、教育総研初代所長海老原治善氏からの寄贈書
- **鈴木喜代春文庫**：児童文学者、元教育相談室相談員鈴木喜代春氏の著作本、寄贈書
- **人権・防災・減災コーナー**：
人権関係、東日本大震災災害の記録など

蔵書の特徴

- 教育関係図書を中心に和書、和雑誌・新聞・洋書、洋雑誌などを収蔵しています。
- 蔵書数 約69,000冊（2021年6月現在）
- 教育図書館のホームページの蔵書検索の画面から検索できます。
(<https://ilisod001.apsel.jp/kyoikutoshokan.lib/wopc/pc/pages/TopPage.jsp>)

交通案内

- 神保町駅 A1出口より徒歩3分
- 九段下駅 6番出口より徒歩7分
- 竹橋駅 1b出口より徒歩5分
- 水道橋駅西口 徒歩12分（JR総武線）

アクセス抜群

神保町駅から**3分**
802名収容の大ホール



10～300名
まで使える
会議室(18室)

1階画廊
もご利用できます

一般財団法人日本教育会館

TEL 03-3230-2831
<https://www.jec.or.jp/>
受付時間 9:00～17:00